

児童・生徒の現状・課題
 ・学習の基礎・基本や学習習慣が定着すること
 ・主体的に考え、学びを選択すること
 ・語彙力や対話力を付け、交流が学びの深まりにつながる
 こと
 ・思考ツールの活用や自己調整する学びの経験を得ること



学び続ける力を育むための重点目標
 低学年:豊かな言葉を使い、自分の思いをのびのびと表現することができる。
 中学年:課題を選択し、目的を持って対話することができる。
 高学年:自分の考えをもち、行動することができる。他者とのかわりの中で、学びを得ることができる。学習内容や学習過程を振り返り、前向きに次の学習に取り組むことができる。



具体的な手だて①
選べる学習活動を取り入れる
 課題・方法・難易度を自分で選べる場面を設定し、自己調整する力を育てる。

具体的な手だて②
対話活動を日常的に行う
 ペア・グループ交流を継続し、「理由を話す・聞く・認め合う」活動を積み重ねる。

具体的な手だて③
思考ツールを継続的に活用する
 比較・整理・関連付けなど、目的に応じた思考ツールを授業で繰り返し使い、自ら選択できるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫
 ○通常の授業を参観し、感想を共有する。参観後は授業者にフィードバックする。スプレッドシートを活用し、よかった点を職員間で共有する。
 ○町五スタンダードを活用し、単元のねらいに応じて「見通す・選択する・協働する・表現する」場面を意図的に設定し、子どもの主体性や協働する力、言語力を育成するために活用する。授業改善の視点として自己チェック項目を活用し、子ども主体の授業づくりにつなげる。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	83.2	85	
②他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりすることは、自分の力をのばす役に立っている。	90.1	92	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	79.9	82	
②問題や課題に取り組んでも上手いかない時には、どうすればよいか、児童が自ら方法を選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	89	91	

総括(5月)
 本校では、語彙力や表現経験、思考ツールを活用する経験が十分ではなく、主体的に考えたり、学びを深めたりする姿に課題が見られる。授業や学校生活の中で対話的な学びを充実させ、言葉を育む体験を積み重ねていくことが重要である。また、子どもの実態に応じた教材を活用し、スモールステップを意識した指導を行うとともに、子どもが必要感をもてる課題設定や自己調整しながら学ぶ場を通して、多様な考えを認め合い、主体的に学び続ける力を育成していく。

総括(1月)